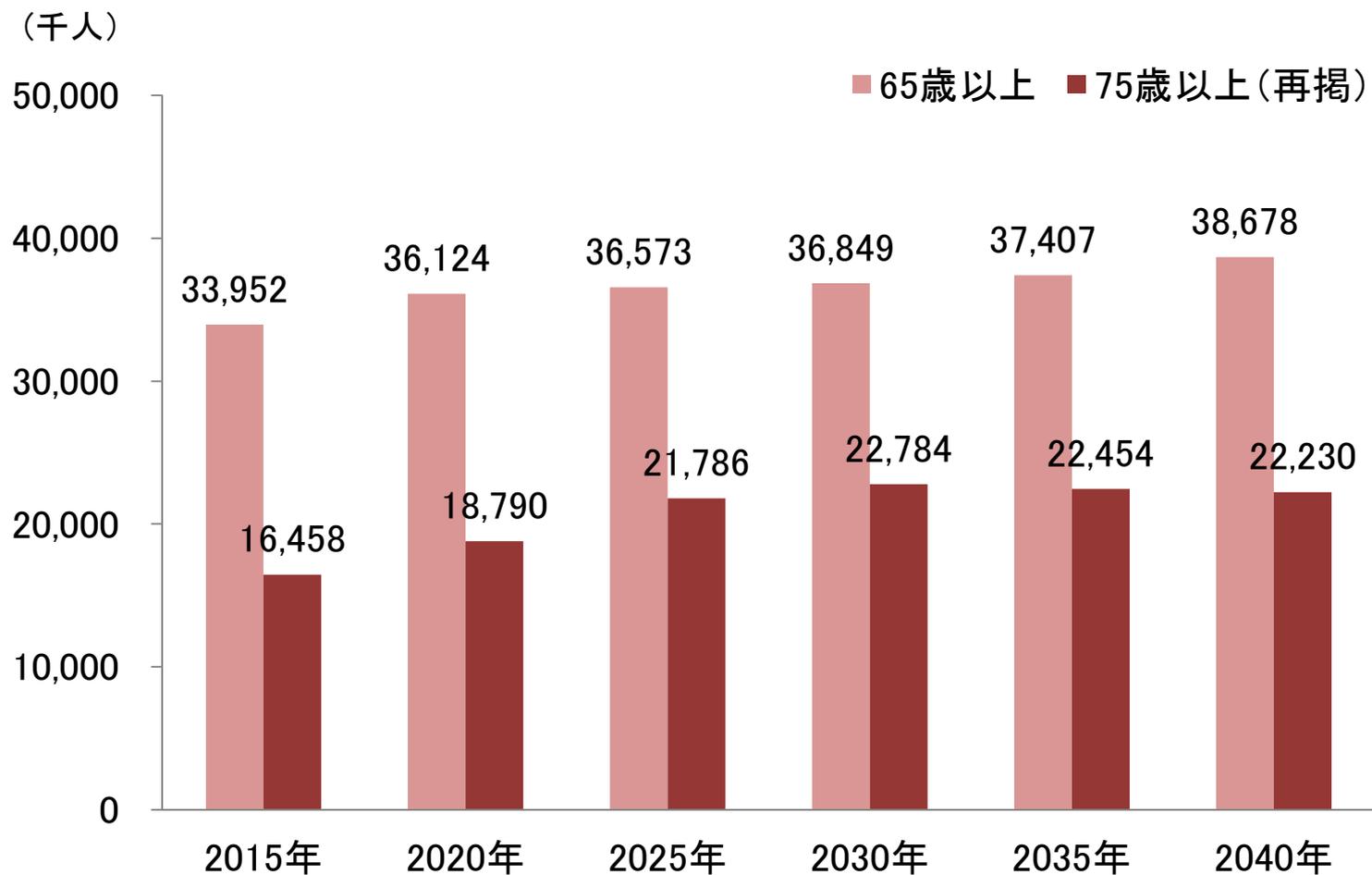


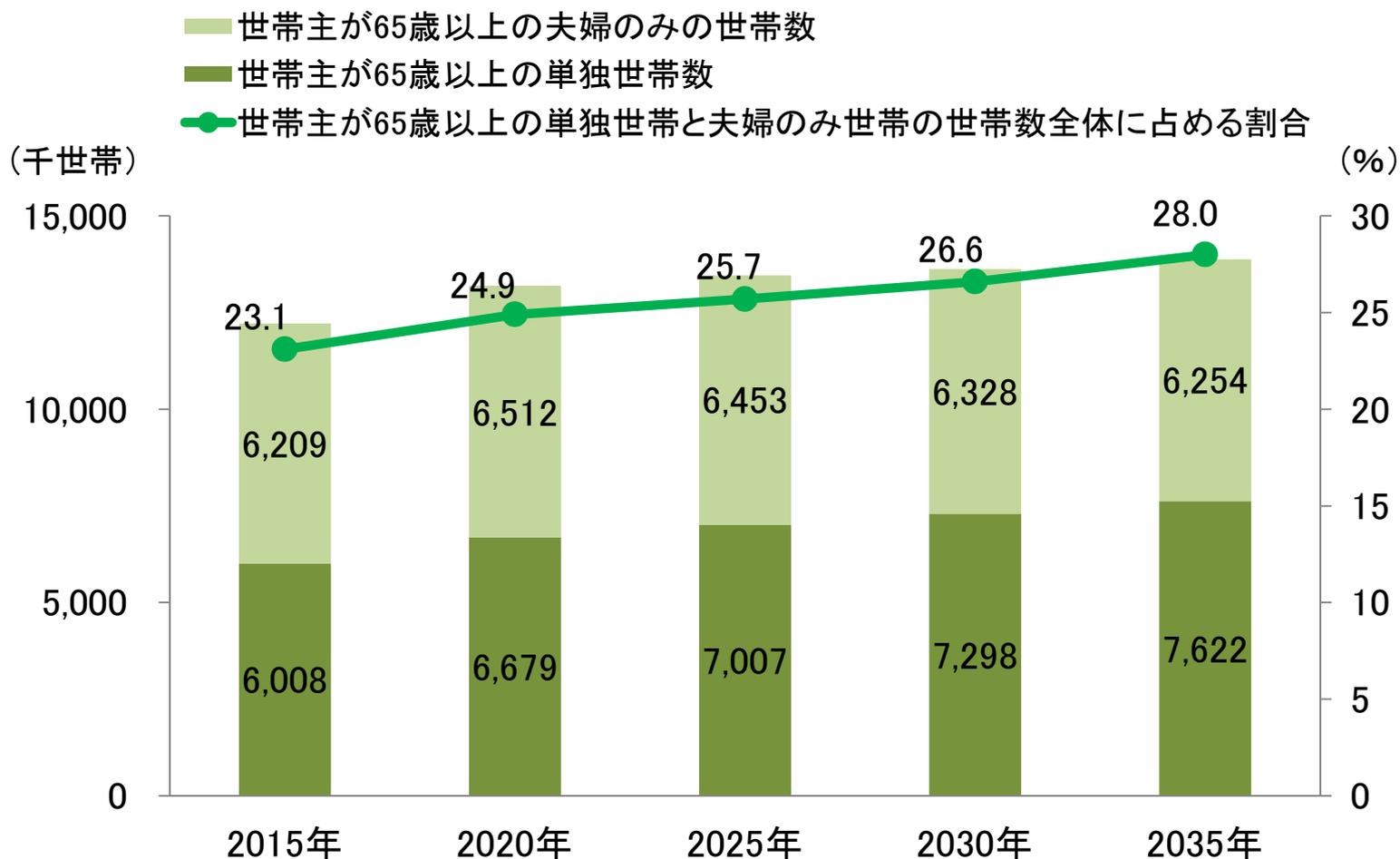
報告書（案）の図表一覧

図1 高齢者の人口推計



出典： 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」より 健康局健康課栄養指導室作成

図2 高齢者の世帯状況



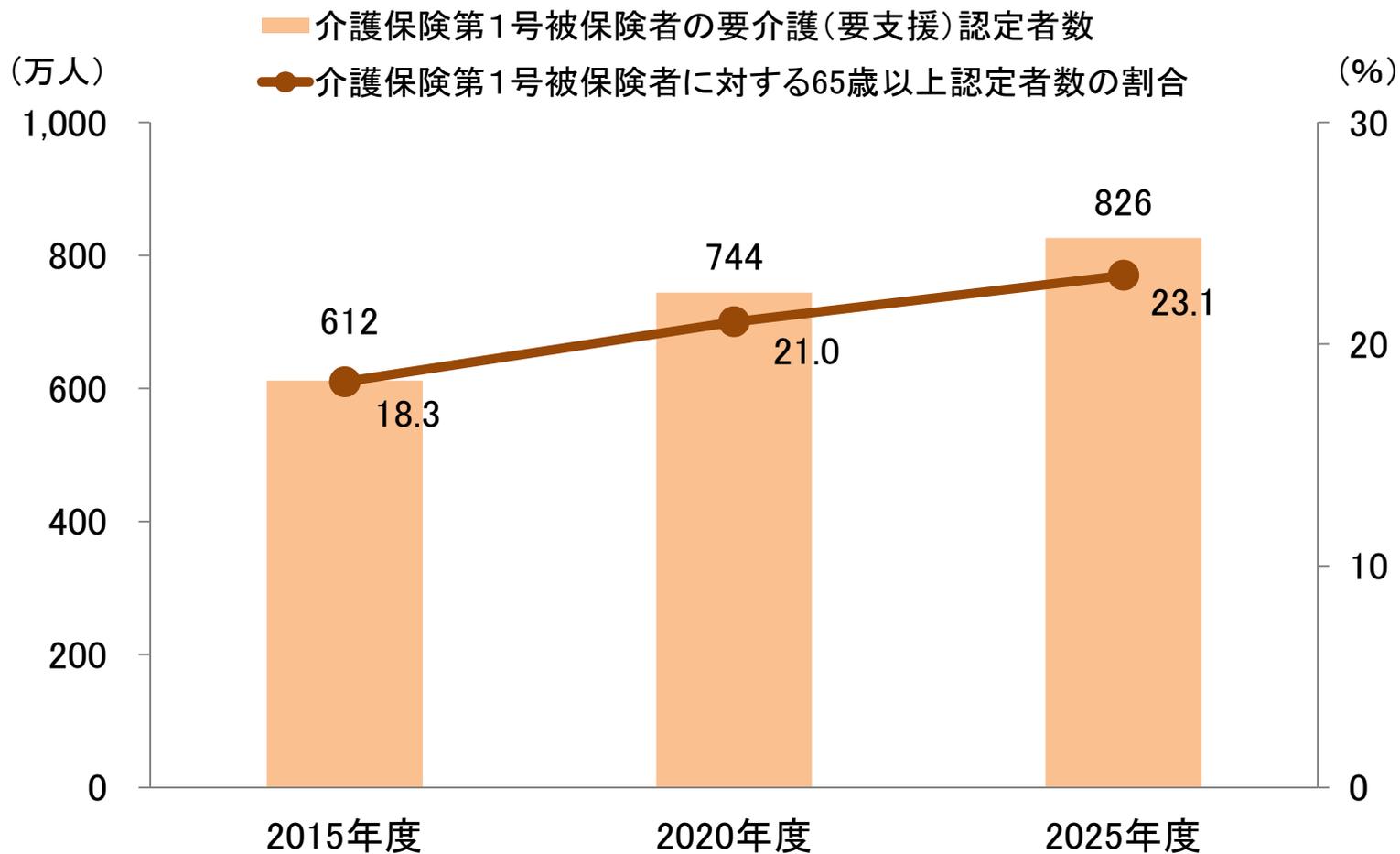
出典： 国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（都道府県別推計）（平成26年4月推計）」より 健康局健康課栄養指導室作成

図3 要介護（要支援）認定者数の推移



出典： 厚生労働省「平成28年版厚生労働白書」

図4 要介護（要支援）認定者数の推計



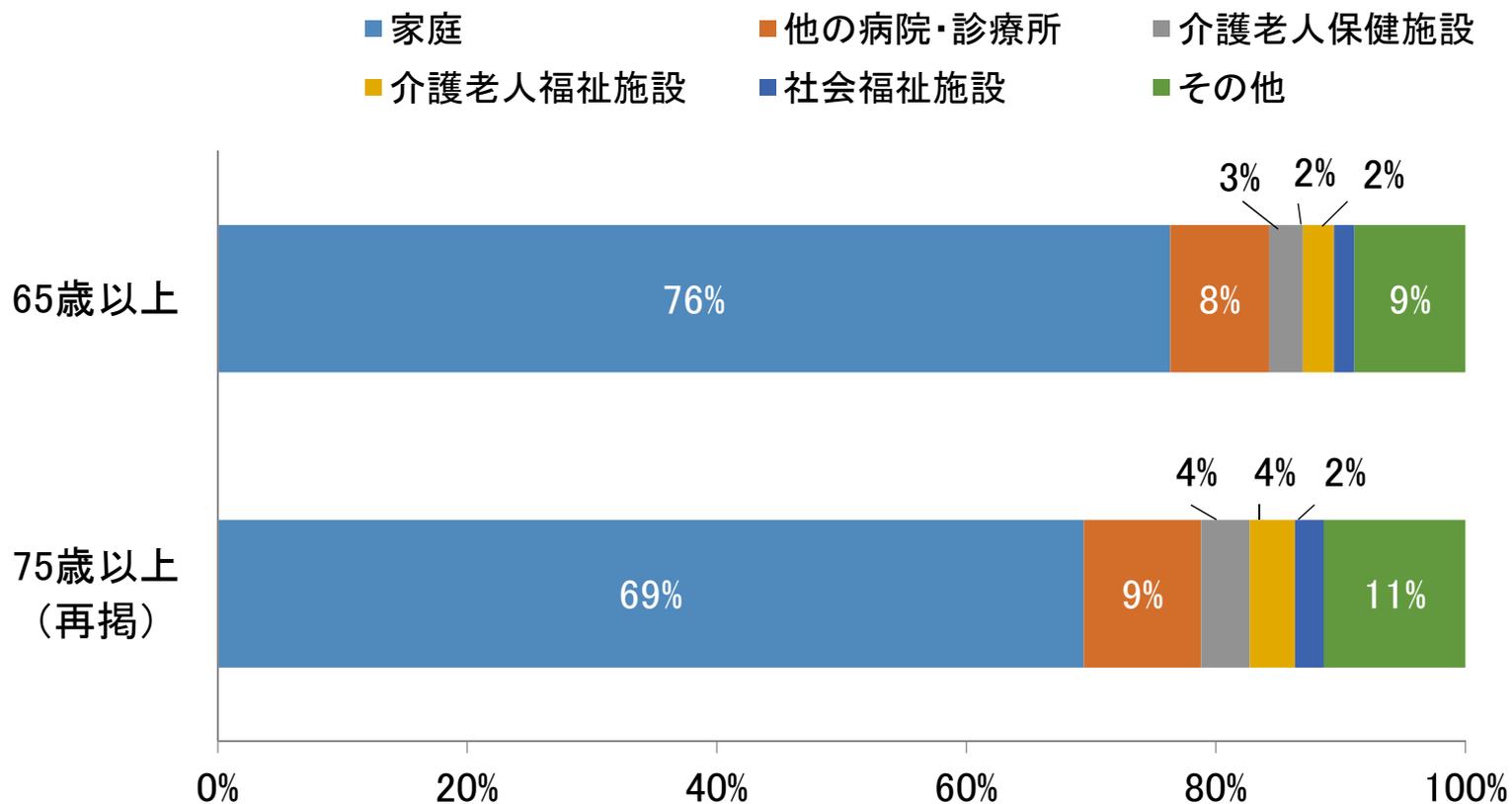
出典：厚生労働省「第6期計画期間・平成37年度等における介護保険の第1号保険料及びサービス見込み量等について」（平成27年4月28日報道発表）より 健康局健康課栄養指導室作成

表1 社会保障・税一体改革が目指す医療・介護のサービス提供体制

		平成24(2012)年度	平成37(2025)年度
【医療】	病床数、平均在院日数	109万床、19～20日程度	【高度急性期】 22万床 15～16日程度
			【一般急性期】 46万床 9日程度
			【亜急性期等】 35万床 60日程度
	医師数	29万人	32～33万人
看護職員数	145万	196～206万人	
	在宅医療等(1日あたり)	17万人分	29万人分
【介護】	利用者数	452万人	657万人(1.5倍) ・ 介護予防・重度化予防により全体として3%減 ・ 入院の減少(介護への移行):14万人増
	在宅介護	320万人分	463万人分(1.4倍)
	うち小規模多機能	5万人分	40万人分(7.6倍)
	うち定期巡回・随時対応型サービス	—	15万人分(—)
	居住系サービス	33万人分	62万人分(1.9倍)
	特定施設	16万人分	24万人分(1.5倍)
	グループホーム	17万人分	37万人分(2.2倍)
	介護施設	98万人分	133万人分(1.4倍)
特養	52万人分(うちユニット13万人(26%))	73万人分(1.4倍)(うちユニット51万人分(70%))	
老健(+介護療養)	47万人分(うちユニット2万人(4%))	60万人分(1.3倍)(うちユニット30万人分(50%))	
介護職員	149万人	237万人から249万人	
訪問看護(1日あたり)	31万人分	51万人分	

出典： 厚生労働省「在宅医療・介護の推進について」を一部改変

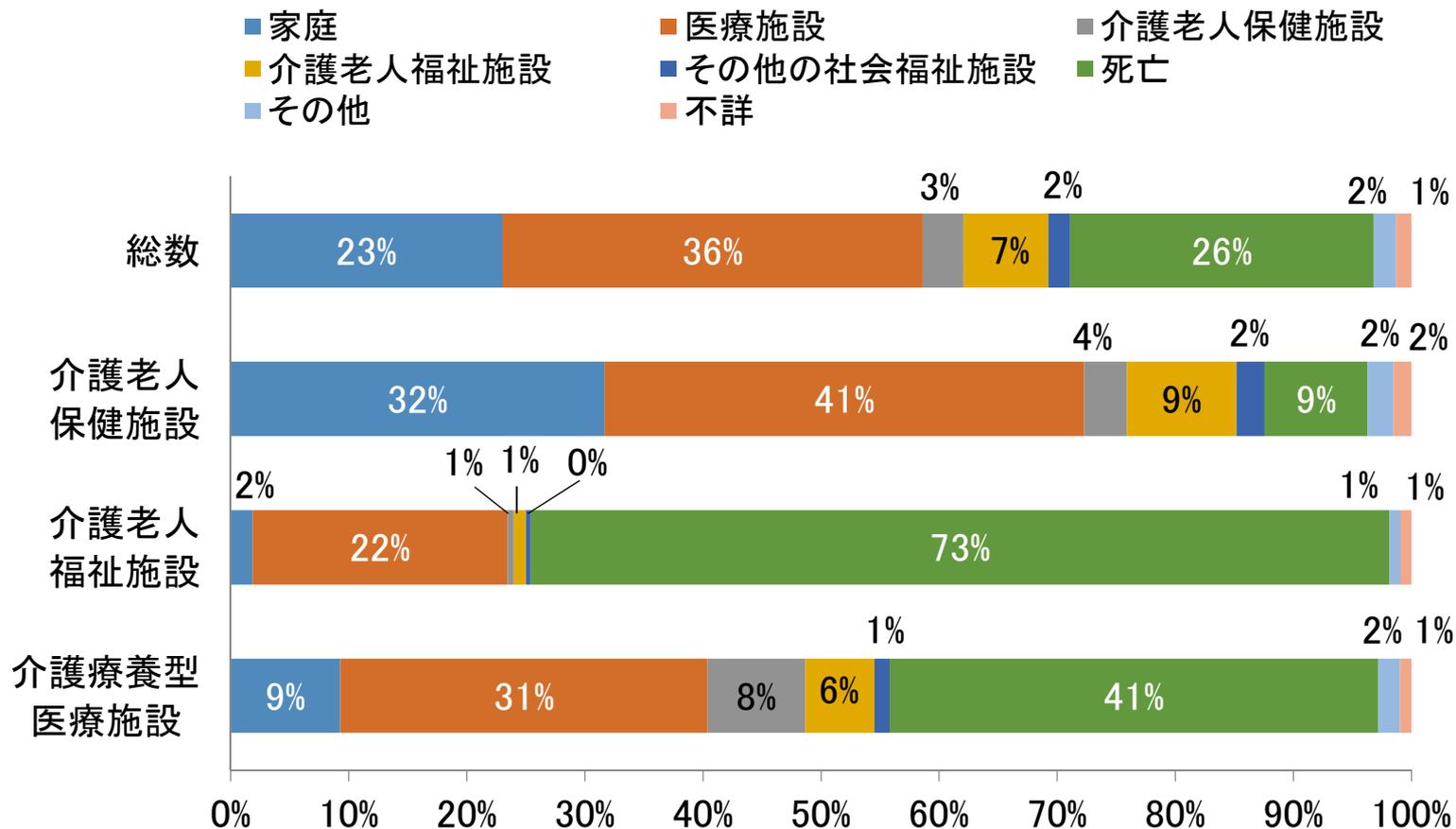
図5 医療機関退院後の行き先別にみた推計退院患者数の構成割合



注： 1) 平成26年9月1日～30日に退院した者を対象とした。
 2) 「家庭」には、病院・一般診療所への通院、在宅医療を含む。

出典： 厚生労働省「平成26年患者調査」より 健康局健康課栄養指導室作成

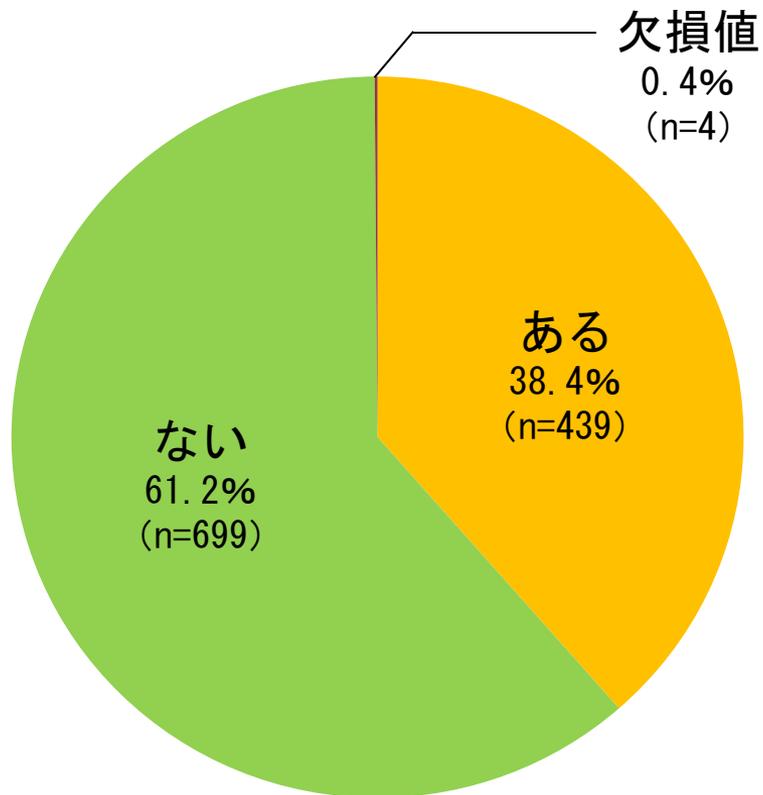
図6 介護保険施設退所後の行き先別にみた退所者数の構成割合



注： 全国の介護保険施設の入所者を対象とし、全国の介護保険施設から抽出を行い、平成25年9月末の在所者の1/2（介護療養型医療施設である診療所については全数）及び9月中の退所者の全数を客体とした。

出典： 厚生労働省「平成25年介護サービス施設・事業所調査」より 健康局健康課栄養指導室作成

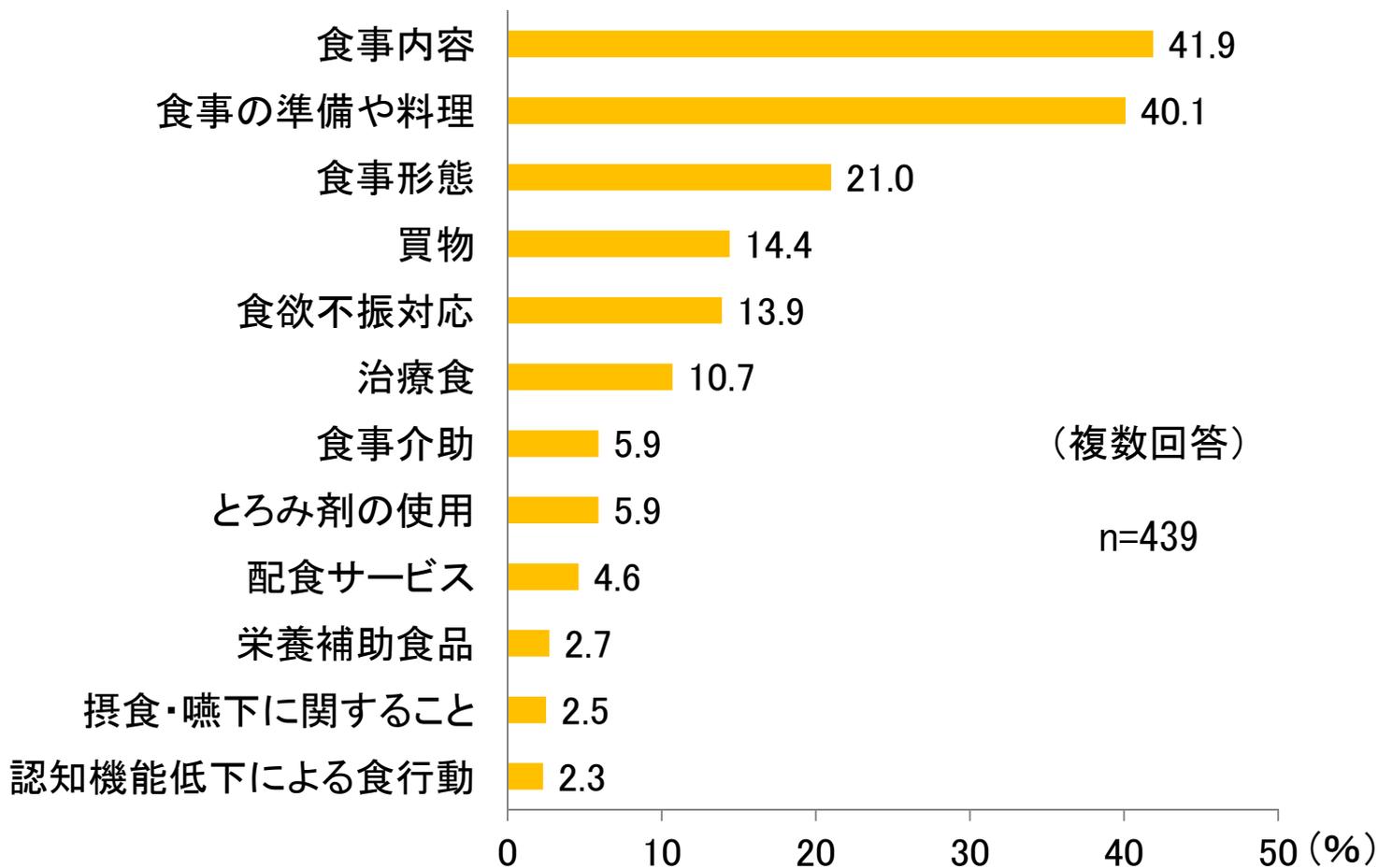
図7 居宅サービス利用者とその家族における利用者の食事についての心配事や困り事の有無



研究同意の得られた愛知県・神奈川県
居宅サービス利用者 (n=1,142)

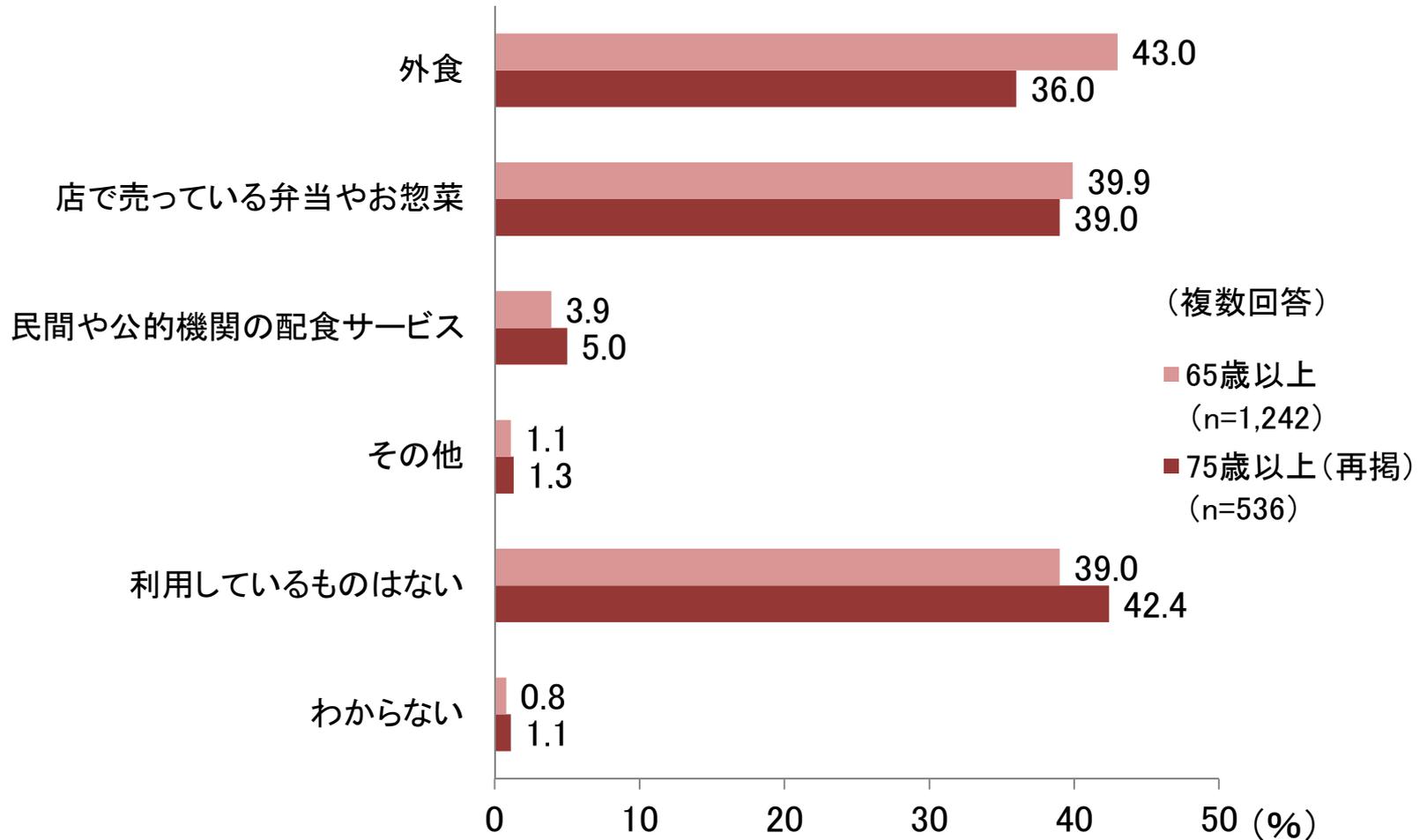
出典：平成24～26年度厚生労働科学研究補助金長寿科学総合研究事業（研究代表者：葛谷雅文、研究分担者：榎 裕美、杉山みち子ほか）の結果（第58回日本老年医学会学術集会で一部公表）をもとに健康局健康課栄養指導室作成

図8 食事に関する心配事や困り事の具体的内容



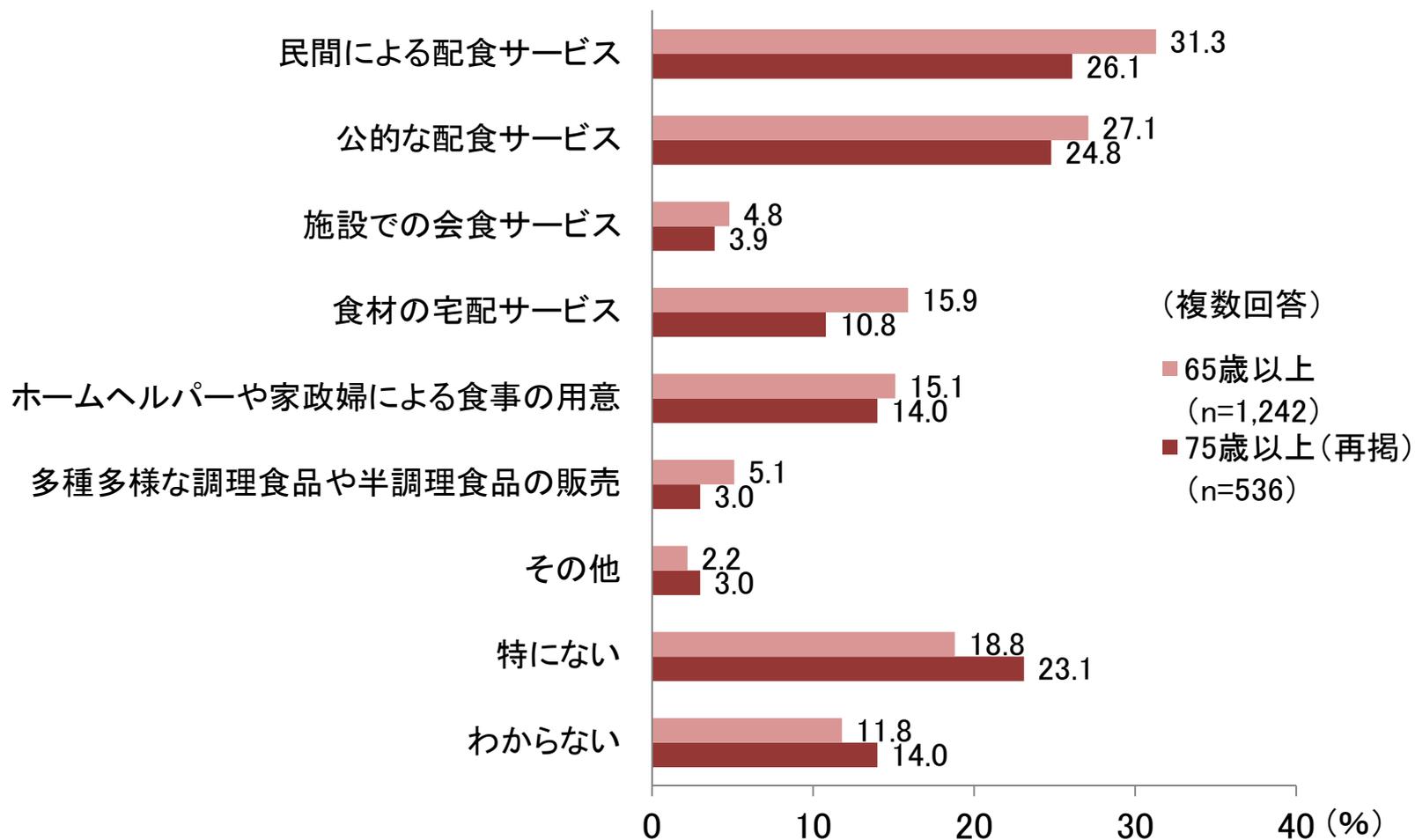
出典：平成24～26年度厚生労働科学研究補助金長寿科学総合研究事業（研究代表者：葛谷雅文、研究分担者：榎 裕美、杉山みち子ほか）の結果（第58回日本老年医学会学術集会で一部公表）をもとに健康局健康課栄養指導室作成

図9 高齢者が利用している食事サービス



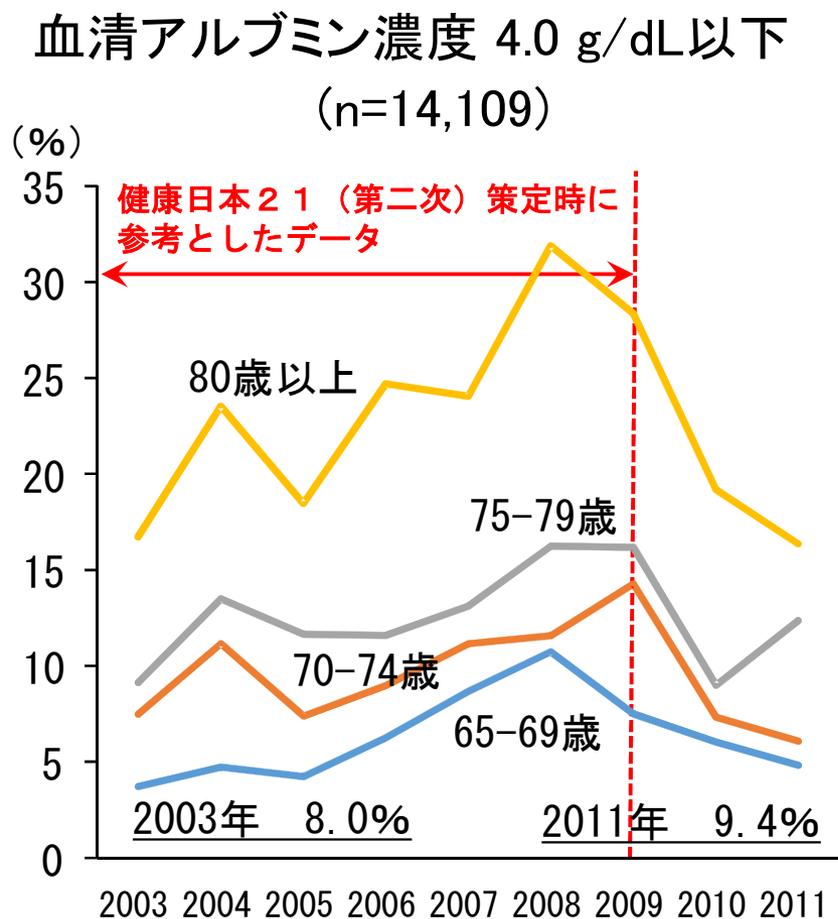
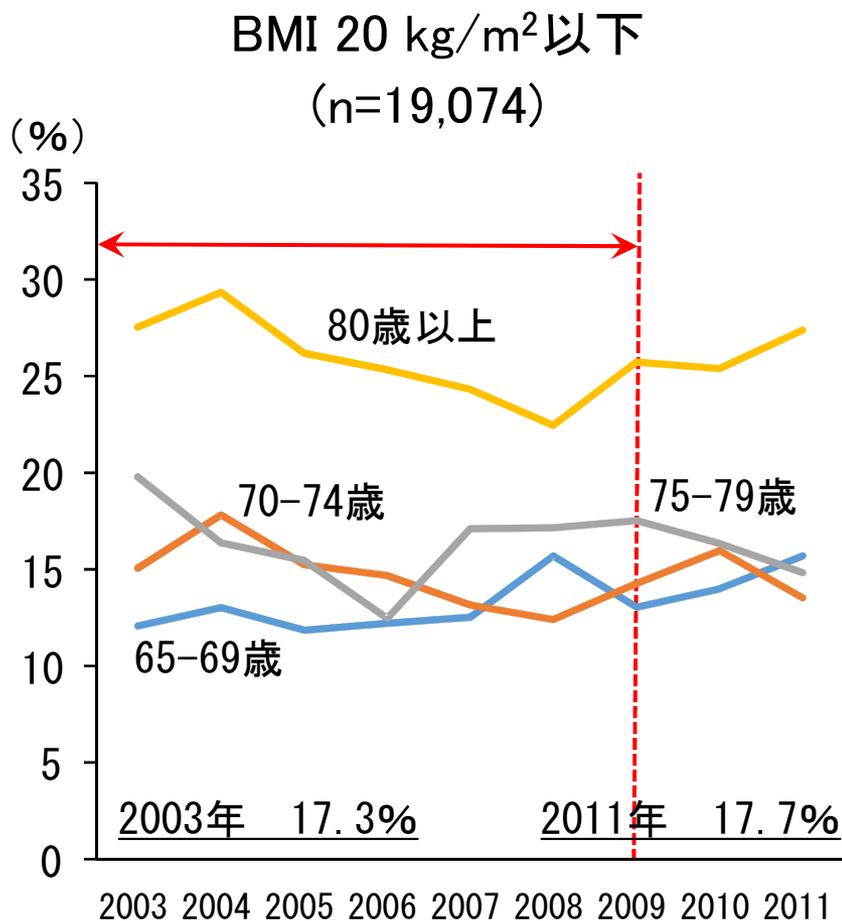
出典： 内閣府「平成24年度 高齢者の健康に関する意識調査」を一部改変

図10 食事に関するサービスの利用意向



出典： 内閣府「平成24年度 高齢者の健康に関する意識調査」を一部改変

図11 低栄養傾向を示す高齢者の割合の年次推移



出典： 日本学術振興会の科学研究費補助金（特別研究員奨励費）を受けて行う「高齢者における貧血と健康寿命の関連－食生活面からの検討－」（代表研究者：横山友里）の一環として実施されたもの（未発表データ）。（第4回「地域高齢者等の健康支援を推進する配食事業の栄養管理の在り方検討会」資料1（新開構成員提供資料））

表2 年代別にみた栄養素等摂取量（男性）

	65-69歳 (n=2,934)	70-74歳 (n=2,692)	75-79歳 (n=1,994)	80歳以上 (n=1,768)	p for trend*
エネルギー (kcal)	2,150 ± 560	2,058 ± 541	1,942 ± 536	1,778 ± 516	<0.001
たんぱく質 (g)	80.1 ± 25.1	76.0 ± 24.7	72.9 ± 23.7	65.9 ± 22.8	<0.001
脂質 (g)	52.6 ± 22.2	49.5 ± 22.0	45.8 ± 21.5	41.8 ± 19.8	<0.001
炭水化物 (g)	304 ± 88	299 ± 87	287 ± 88	268 ± 79	<0.001
カルシウム (mg)	590 ± 289	590 ± 295	563 ± 285	522 ± 284	<0.001
鉄 (mg)	9.4 ± 3.5	9.2 ± 3.7	8.8 ± 3.5	8.1 ± 3.8	<0.001
ビタミンC (mg)	142 ± 134	145 ± 133	140 ± 142	131 ± 142	0.010
ナトリウム (mg)	4,997 ± 1,968	4,837 ± 1,942	4,579 ± 1,862	4,254 ± 1,810	<0.001

*傾向性の検定(重み付け一元配置分散分析)
(p値の網掛けは、有意水準5%で有意差あり。)

出典： 日本学術振興会の科学研究費補助金（特別研究員奨励費）を受けて行う「高齢者における貧血と健康寿命の関連－食生活面からの検討－」（代表研究者：横山友里）の一環として実施されたもの（未発表データ）。（第4回「地域高齢者等の健康支援を推進する配食事業の栄養管理の在り方検討会」資料1（新開構成員提供資料））

表3 年代別にみた食品群別摂取量（男性）

	65-69歳 (n=2,934)	70-74歳 (n=2,692)	75-79歳 (n=1,994)	80歳以上 (n=1,768)	p for trend*
穀類(g)	527.2 ± 188.6	512.9 ± 183.9	491.2 ± 187.8	454.8 ± 159.4	<0.001
いも類(g)	64.6 ± 78.4	66.8 ± 81.9	65.3 ± 78.4	60.3 ± 73.3	0.097
豆類(g)	74.4 ± 81.8	74.1 ± 83.4	69.9 ± 82.3	62.6 ± 68.1	<0.001
野菜類(g)	344.2 ± 194.6	333.5 ± 190.2	314.0 ± 185.6	286.3 ± 176.1	<0.001
果実類(g)	150.9 ± 154.2	158.5 ± 158.6	147.0 ± 145.3	139.4 ± 151.1	0.004
海草類(g)	15.3 ± 28.9	14.6 ± 25.9	14.3 ± 26.5	12.8 ± 22.5	0.003
魚介類(g)	117.3 ± 92.8	106.1 ± 85.2	106.0 ± 83.4	92.4 ± 77.4	<0.001
肉類(g)	67.7 ± 63.3	61.2 ± 59.3	53.9 ± 58.9	48.1 ± 51.7	<0.001
卵類(g)	36.4 ± 35.4	34.9 ± 34.1	35.1 ± 33.6	32.8 ± 32.7	0.001
乳類(g)	99.5 ± 132.2	105.2 ± 131.6	101.1 ± 133.1	97.8 ± 126.7	0.599
油脂類(g)	9.3 ± 9.4	8.0 ± 8.5	7.1 ± 8.4	6.4 ± 7.8	<0.001

*傾向性の検定(重み付け一元配置分散分析)

(p値の網掛けは、有意水準5%で有意差あり。)

出典： 日本学術振興会の科学研究費補助金（特別研究員奨励費）を受けて行う「高齢者における貧血と健康寿命の関連—食生活面からの検討—」（代表研究者：横山友里）の一環として実施されたもの（未発表データ）。（第4回「地域高齢者等の健康支援を推進する配食事業の栄養管理の在り方検討会」資料1（新開構成員提供資料））

表4 年代別にみた栄養素等摂取量（女性）

	65-69歳 (n=3,494)	70-74歳 (n=2,972)	75-79歳 (n=2,504)	80歳以上 (n=2,926)	p for trend*
エネルギー (kcal)	1,739 ± 450	1,698 ± 442	1,617 ± 449	1,502 ± 415	<0.001
たんぱく質 (g)	68.2 ± 21.5	65.9 ± 21.0	61.9 ± 21.2	56.7 ± 19.5	<0.001
脂質 (g)	46.1 ± 19.5	44.0 ± 19.4	40.4 ± 18.9	36.8 ± 17.2	<0.001
炭水化物 (g)	257 ± 72	254 ± 71	247 ± 73	231 ± 67	<0.001
カルシウム (mg)	581 ± 301	571 ± 285	547 ± 294	483 ± 270	<0.001
鉄 (mg)	8.8 ± 5.0	8.5 ± 3.4	8.1 ± 3.4	7.4 ± 3.5	<0.001
ビタミンC (mg)	168 ± 194	160 ± 184	150 ± 214	125 ± 150	<0.001
ナトリウム (mg)	4,370 ± 1,793	4,225 ± 1,673	4,100 ± 1,738	3,852 ± 1,659	<0.001

*傾向性の検定(重み付け一元配置分散分析)

(p値の網掛けは、有意水準5%で有意差あり。)

出典： 日本学術振興会の科学研究費補助金（特別研究員奨励費）を受けて行う「高齢者における貧血と健康寿命の関連—食生活面からの検討—」（代表研究者：横山友里）の一環として実施されたもの（未発表データ）。（第4回「地域高齢者等の健康支援を推進する配食事業の栄養管理の在り方検討会」資料1（新開構成員提供資料））

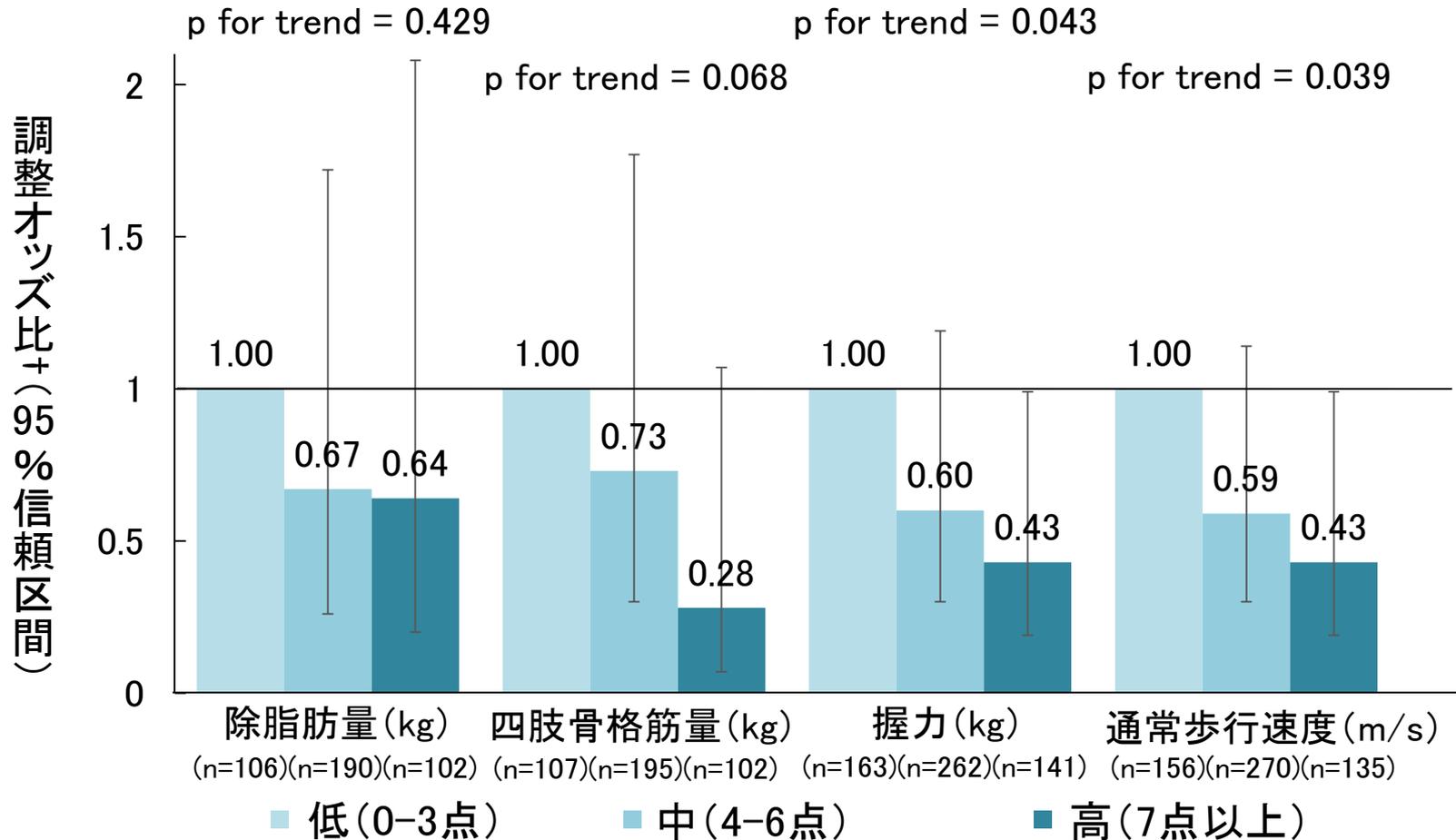
表5 年代別にみた食品群別摂取量（女性）

	65-69歳 (n=3,494)	70-74歳 (n=2,972)	75-79歳 (n=2,504)	80歳以上 (n=2,926)	p for trend*
穀類(g)	397.0 ± 137.0	397.2 ± 135.2	391.1 ± 138.8	371.5 ± 127.4	<0.001
いも類(g)	62.1 ± 76.5	65.6 ± 79.6	62.2 ± 74.1	58.5 ± 71.4	0.027
豆類(g)	69.2 ± 77.2	69.2 ± 75.2	65.5 ± 73.2	56.8 ± 65.0	<0.001
野菜類(g)	326.7 ± 181.8	314.8 ± 177.2	299.7 ± 171.4	267.7 ± 158.5	<0.001
果実類(g)	175.6 ± 156.4	172.3 ± 151.7	158.9 ± 160.3	135.2 ± 141.3	<0.001
海草類(g)	15.7 ± 33.8	14.7 ± 26.7	13.5 ± 24.9	12.3 ± 24.2	<0.001
魚介類(g)	93.2 ± 74.8	87.7 ± 69.3	82.9 ± 66.3	76.8 ± 64.9	<0.001
肉類(g)	53.2 ± 51.6	49.9 ± 51.3	42.9 ± 48.0	39.1 ± 43.4	<0.001
卵類(g)	30.3 ± 31.6	31.1 ± 30.6	30.1 ± 31.2	29.4 ± 30.5	0.147
乳類(g)	113.0 ± 132.0	115.8 ± 131.0	105.2 ± 129.4	91.6 ± 118.6	<0.001
油脂類(g)	7.6 ± 8.1	7.1 ± 7.7	6.3 ± 7.3	5.9 ± 6.7	<0.001

*傾向性の検定(重み付け一元配置分散分析)
(p値の網掛けは、有意水準5%で有意差あり。)

出典： 日本学術振興会の科学研究費補助金（特別研究員奨励費）を受けて行う「高齢者における貧血と健康寿命の関連—食生活面からの検討—」（代表研究者：横山友里）の一環として実施されたもの（未発表データ）。（第4回「地域高齢者等の健康支援を推進する配食事業の栄養管理の在り方検討会」資料1（新開構成員提供資料））

図12 食品摂取の多様性得点3区分と筋量・身体機能との縦断的関連



研究対象者: 鳩山コホート研究または草津縦断研究に参加した65歳以上地域在住高齢者

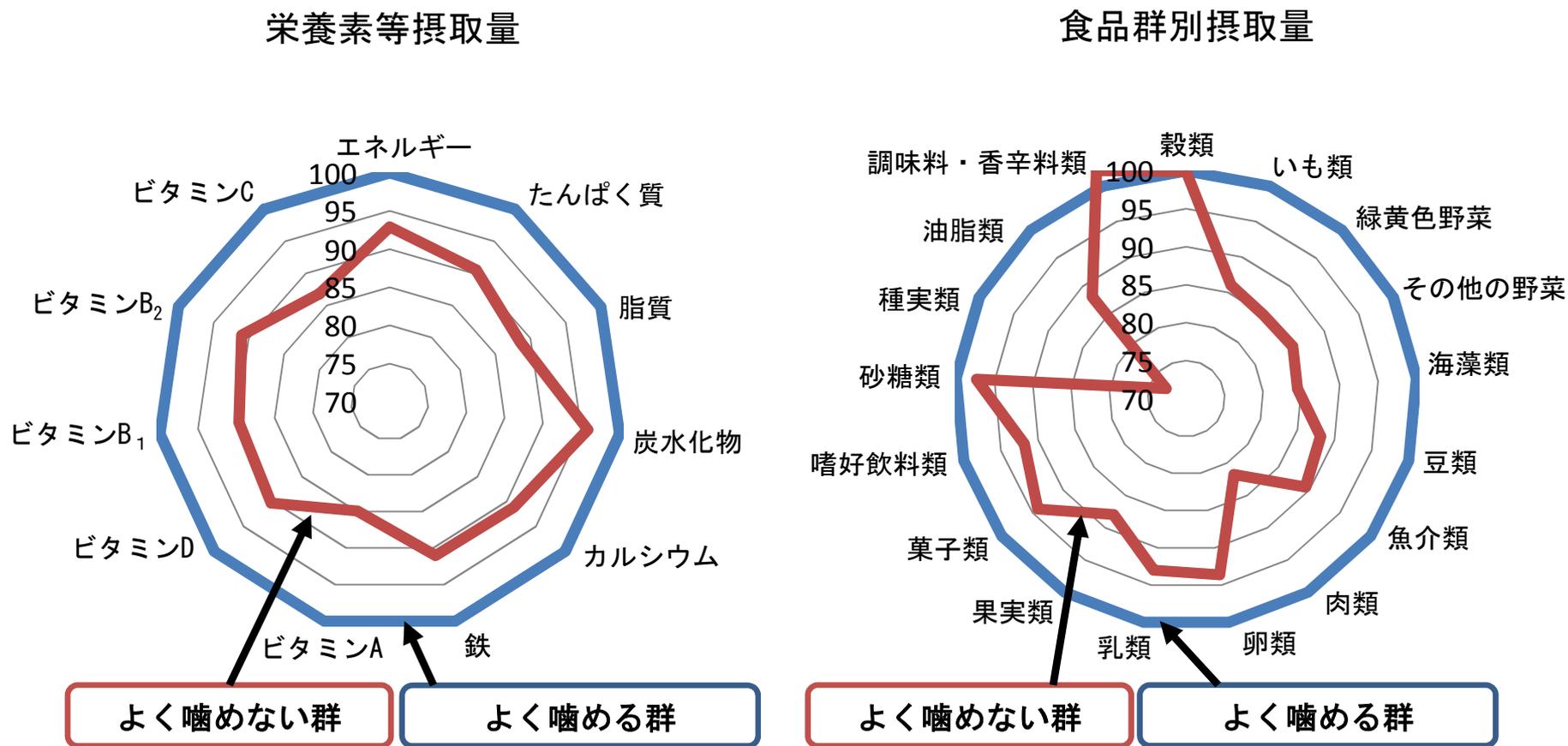
†各変数(除脂肪量、四肢骨格筋量、握力、通常歩行速度)低下のオッズ比

調整変数: 性, 年齢, 研究地域, 教育年数, 居住形態, 主観的咀嚼能力, 喫煙, 飲酒, 運動習慣, BMI, 認知機能(Mini-Mental State Examination scoreの点数), うつ(Geriatric Depression Scale scoreの点数), 既往歴(高血圧, 糖尿病, がん, 脳卒中, 心疾患, 慢性閉塞性肺疾患)

出典: Yokoyama Y et al. J Nutr Health Aging 2017; 21(1): 11-6.

第4回「地域高齢者等の健康支援を推進する配食事業の栄養管理の在り方検討会」資料1
(新開構成員提供資料)

図13 噛む力の状況別にみた栄養素等摂取量・食品群別摂取量



出典： 第4回「地域高齢者等の健康支援を推進する配食事業の栄養管理の在り方検討会」資料1
(新開構成員提供資料)

図14 配食市場規模の拡大

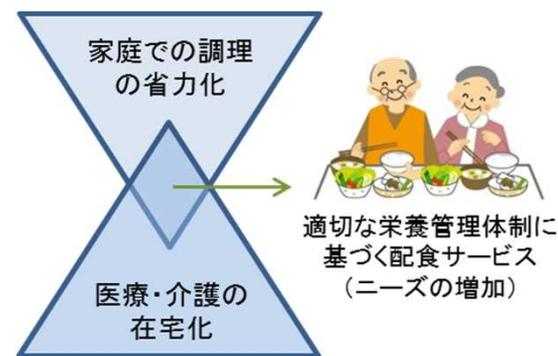
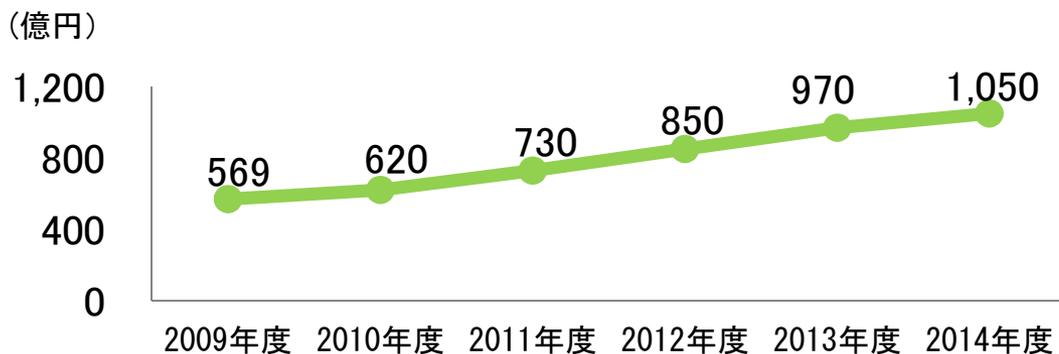


図 配食市場規模

資料：株式会社矢野経済研究所「メディカル給食・在宅配食サービス市場に関する調査結果2015」より健康局健康課栄養指導室で作成

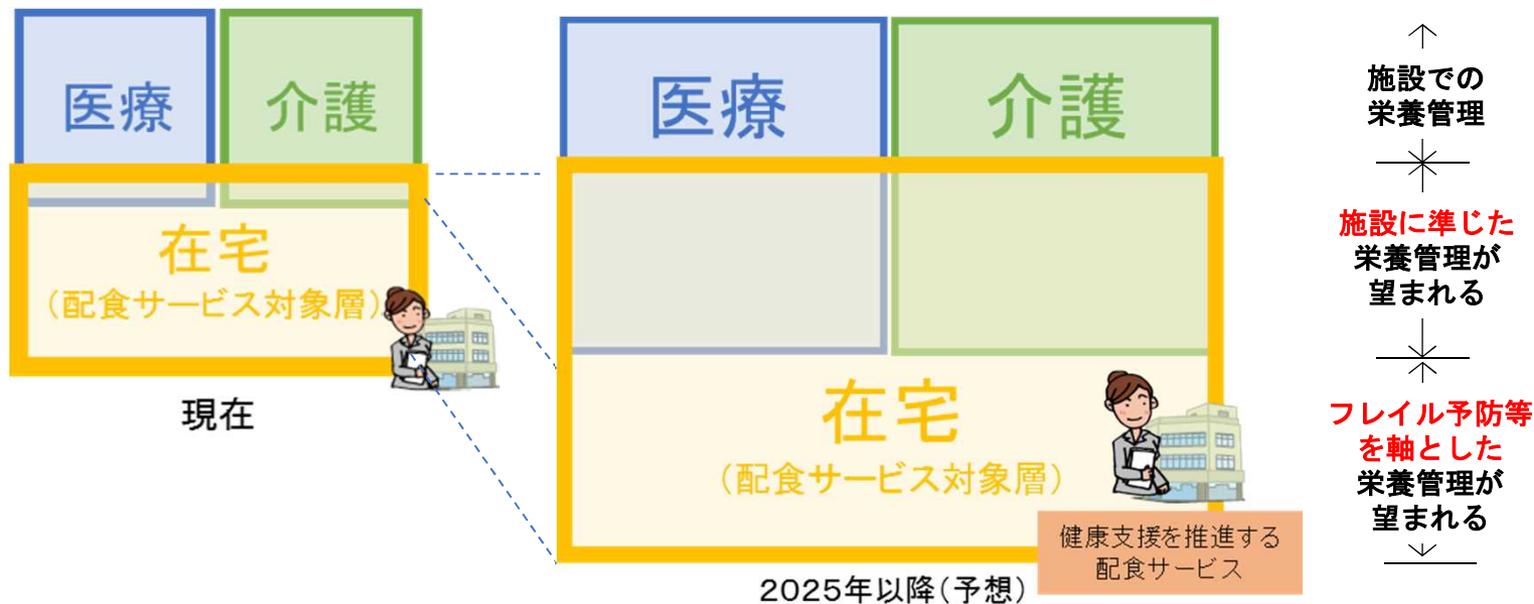


図15 配食事業者と事業内容

<営利・非営利別>

- ・ 営利法人
（大手事業者、中小事業者）
- ・ 非営利法人
（NPO法人、ボランティア等を含む）

<業態別>

- ・ 給食事業者
- ・ コンビニ
- ・ 食品メーカー
- ・ 生活協同組合
- ・ 社会福祉協議会（社協）
- ・ JA
- ・ 飲食店
- ・ 医療機関・介護施設
- ・ 自治体 等

<行政の関与>※

- ・ あり
 - ・ 行政＋社協
 - ・ 行政＋社協＋地域資源
 - ・ 行政＋社協＋地域資源
＋民間事業者 等
- ・ なし
 - ・ 民間事業者
 - ・ 民間事業者＋社協 等

※ 高齢者生活支援研究会編『これからの配食サービス—高齢者の食を地域で支える—』（かもがわ出版：2004年）を参考に記載

<サービス内容>

- ・ 食事
 - ・ 一般食
 - ・ コントロール食
 - ・ 嚥下調整食
- ・ 見守り 等